

# 西諸県地域の普及活動

令和8年1月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 1月期子牛郡品評会が開催

13日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和8年1月期子牛郡品評会が開催されました。

1月16日から18日に開催される1月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た31頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、壹等賞に15頭、貳等賞に8頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の中島ちどりさん出品の「さくら」号(父:桃白鵬)、2席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1506」号(父:光圀久)、3席は高原町の大濱一文さん出品の「みいぴん」号(父:英白清)が受賞されました。受賞牛は、体積豊かで、深み、伸びに秀でているとの講評でした。



【優等賞首席「さくら」】

### 2) 子牛初競りが開催

16日から18日までの3日間、小林地域家畜市場において、子牛セリ市が開催されました。初日はセリ開始前に、今年1年の市場の盛況を祈願して、鏡開きが行われました。

来賓として出席された河野知事が、出品者に代わって引き出しを行った出品牛には約90万円の値が付くなど、幸先の良い子牛セリ市となりました。

普及センターからは、約130名の参加者に対して、秋冬作飼料作物の雑草防除をテーマに講習し、除草剤について質問がありました。

今後も継続して、基本技術の紹介を行っていきます。



【初セリ 子牛の引き出し】

※この報告書では、JA みやざきこばやし地区本部を「JA こばやし地区」、  
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。  
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

## Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

#### 1) 第2回アグリ★レベルアップセミナーを開催

27日に、経営者の心構えや経営管理能力のさらなる向上を目指したい方を対象とする実践的な経営管理能力の向上を目的とした視察研修会を開催しました。大規模にピーマンを生産する株式会社イニーフーム(西都市)を訪問し、代表取締役社長の橋口仁一氏から目標収量の考え方や法人化の経緯、人材確保・育成など経営面の考え方を学ぶとともに、天敵利用やCO<sub>2</sub>施用などの栽培技術についてもご教示いただきました。

参加者は熱心に話を聞き、作業指示の出し方や労務管理、経営の多角化に関することなど、様々な質問を投げかけるなど関心の高さがうかがえました。

経営に対する意識の変化や「実践してみたい」という声も聞かれ、実り多い研修になりました。



【熱心に質問する参加者達】

#### 2) 就農相談会を実施

14日に、小林市において肉用牛繁殖経営での就農希望者へ相談対応をしました。今回が第1回目の相談会で、就農計画の概要確認と活用の可能性が見込める各種支援策について関係機関から説明が行われました。

今後、必要な機械設備等の見積もり取得や相談者の経営計画がより明確になった段階で、経営の基礎についての説明や収支計画作成支援等を進めていく予定です。

※就農相談対応 3者3回

(内訳 小林市：肉用牛繁殖1者、マンゴー2者※(※2)お試し就農受入れ時に実施)

#### 3) JA みやざきこばやしマンゴー部会でお試し就農を実施

26日から30日に、JAこばやしマンゴー部会2名の生産農家で、お試し就農3名の受入を行いました。

お試し就農者2名については、個別に就農相談会を実施し、今後の就農の意向やご家族の状況等の個別の聞き取りを行った上で、研修の受入や就農までの流れ等について支援策を交えながら説明が行われました。

29日には、交流会も行われ、参加した部会生産者4名からマンゴー生産の実情について、より深い話をされるなど有意義な機会となりました。

参加者は相談を通じて不明点が解消され、就農への意志が強固なものとなったようです。



【ハウス内での枝の誘引作業】



## 4) にしもろサップの狩猟免許講習会を開催

14日に、にしもろサップの狩猟免許講習会が行われました。講習会は、えびの市SAP会員からの呼びかけにより、にしもろサップ会員6名、関係機関1名で行われ、普及センターから、わな猟免許の試験対策を中心に筆記試験の説明とわなの仕掛け方の実演を行いました。質疑応答も行われ、免許取得に向けて知識を深めるとともに鳥獣被害対策など、今後の農業経営に活かせる知識を習得する良いステップとなりました。



【わなのかけ方の実演】

## (未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

### 1) ミシマサイコ新規生産希望者の説明会を実施

14日、普及センターで新規生産希望者向けの説明会を実施しました。12月チラシで栽培者の募集をし、9名の応募がありました。

説明会では、ミシマサイコの栽培方法、農薬の登録状況、専用機械の貸出制度、買取価格の動向などの情報提供を行ったあと、既存生産者から栽培の苦労話が披露されました。参加した新規希望者は、今回の情報を踏まえて栽培の開始の判断します。

今後とも関係機関と連携し、産地の更なる拡大に向けた対策を進めていきます。



【専用機械の説明状況】

## (にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

### 1) えびの市の露地野菜法人が第68回宮崎日日新聞農業技術賞を受賞

16日、宮日会館（宮崎市）において、第68回 宮崎日日新聞 農業技術賞贈呈式が行われ、西諸県地区からは、「株式会社立久井農園」（代表取締役 立久井 義文）が受賞しました。

今回の受賞は、経営規模拡大するなかで、「自ら人を育て、長期的に雇用する」方針のもと、優秀な人材の確保・育成、作業工程の分解・機械化により従業員の負担軽減や生産性を向上させたことが評価されました。受賞者の立久井氏からは、駆け出しの頃、宮日賞を受賞した先達が雲の上の存在だったことや、支えてくれた皆様への感謝を述べられました。



【受賞者立久井氏の挨拶】

### 2) サツマイモ茎根腐細菌・高温対策を説明

20、22日に、JA こばやし地区かんしょ部会の講習会が開催され、計64名が参加しました。普及センターからは、病害対策として健全な種苗の確保・残渣分解の実施・高温による生育不良を軽減するための対策を説明しました。生産者からは、特に育苗（健全な種いも確保）や植え付け直後（農薬、地温抑制マルチの活用）の病害対策について質問が多く、実施すべき対策を共有できました。



【各種対策の説明状況】

## (スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

### 1) JA こばやし促成きゅうり現地検討会

15日に、JA こばやしきゅうり部会の促成きゅうり現地検討会が開催されました。検討会では、新品種の生育状況や温度管理、灌水管理などについて生産者同士で意見が交わされていました。促成きゅうりの栽培も2月で折り返しとなります。春先に向けて収量を落とさないよう、灌水管理や肥培管理などの助言を行っていきます。



【生産者同士で意見交換】

## (魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

### 1) JA こばやしマンゴー部会全体定例巡回

30日に、小林市内の園地においてJA こばやしマンゴー部会全体定例巡回が開催され、部会員約30名、関係機関3名が参加しました。研修会では、JA担当者から生育概況の報告や暑熱対策資材の紹介等がありました。その後、ハウス内の生育状況を確認しながら、幼果時期の管理方法や軸腐病対策について生産者と確認を行いました。

今後も引き続き関係機関と連携しながら支援していきます。



【部会長の挨拶】

## (西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

### 1) 高原町花卉部会の定例会が開催

22日に、高原町管内においてはほ場巡回及び定例会が開催され、生産者6名と関係機関5名が参加しました。ほ場巡回では、目立った病虫害の発生等はなく、生育は順調でした。巡回後の定例会では、JAから情勢報告が行われ、出荷の状況について説明されました。普及センターからは、日長が伸びて気温も上がってくる2月以降の栽培管理について、換気や防除等のポイントを説明しました。生産者からは寒さが続くため、暖房経費がかさむことへの懸念が意見として出ました。



【キクの生育を確認する様子】

### 2) JA みやざきこばやしラナンキュラス研究会の出荷目揃え会が開催

27日に、JAの高原集荷場にて研究会会員8名と関係機関5名が参加して出荷目揃え会が開催されました。まずJAから情勢報告があり、今後の卒業シーズン等での需要から高値を目指していることなどが説明されました。普及センターからは、今後の栽培管理と花シミ対策等について説明しました。生産者からは、今年こそは高値で推移することへの期待が意見として出ました。

良品出荷につながるよう、引き続き支援していきます。



【規格についての意見交換】



## 2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

### 1) 西諸県地区女性農業者サポート 協議会研修会の開催

28日、普及センターにおいて、研修会が開催され、女性農業者等18名及び関係機関10名が参加されました。

講師には、(有)暮らしと資産管理の鳥集寿一氏を招き、「争族」にしない相続と題して、相続の際の心構え、事前にできる対策等についてお話しいただきました。実例に基づいたお話が多く、参加者からも質問が多く上がるなど、身近な問題を考える貴重な機会となりました。



【相続について考える参加者】

### 2) 西諸県地区普通作部会 福岡・佐賀視察

29～30日に、営振協普通作部会10名で、穀物検定協会、大規模水田営農経営体への視察研修を行いました。

- ① 穀物検定協会：食味官能試験の方法や食味ランキングの傾向等について学び、当地域で取り入れられる内容や工程について検討しました。
- ② 佐賀県の大規模水田営農経営体：機械設備等を見学し、経営体が行っている栽培方法や経営管理について活発な意見交換が行われました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【研修を受ける技術員】

### 3) こばやし 特別栽培米講習会

27日に、普及センターにて、こばやし特別栽培米講習会を開催し、管内の生産者11名が参加しました。

講習会の内容は、令和7年産特別栽培米実績や令和8年特別栽培米の暦・病虫害防除について説明しました。

講習会後には、参加者で特別栽培米の食味官能試験も行いました。生産者からは、「どれも美味しく、優劣付けがたい」との感想でした。

今後も関係機関と連携し、生産者への支援を行っていきます。



【講習を受ける生産者】

### 4) 全国優良経営体表彰受賞者の農政水産部長表敬

16日に、地域創生部門で協議会長賞を受賞した小林市の株式会社種子田フルーツの種子田健氏が、県農政水産部長に表敬を行いました。部長からは栽培品種や新燃岳の降灰の影響、今後についての質問があるなど、終始、和やかな雰囲気でした。

今後も普及センターとして引き続き支援を行っていきます。



【部長らとの記念撮影】

## 5) NOSAIと普及センターの共同研修会

19日に、小林地域家畜市場で、NOSAIと普及センターの共同研修会を開催し、管内の肉用牛繁殖農家29名が参加しました。

研修会は、「見直そう敷料と堆肥」をテーマに、普及センターからは良質な堆肥生産のためのポイントを説明し、NOSAIからは敷料や堆肥に潜むリスクと経営的なムリ・ムダについての説明がありました。

アンケートでは、「いつもと違う視点での研修会で参考になった」との意見が寄せられました。

今後も関係機関と連携を図りながら生産者への支援を行っていきます。



【講習会の様子】

## 6) 西諸県地区花き技術員会第6回定例会が開催

13日に、普及センターにて第5回定例会を開催し、関係機関7名が参加しました。

管内で生産される花きの生育状況等についての情報交換や、月末に開催される「みやざき花の祭典2026」の出品促進を打ち合わせしました。

さらに、来年度の営振協展示ほ計画や先進地視察研修などについて協議しました。関係機関や農家と情報交換を密に行うことで、技術員会の活発な活動につなげていきたいと思えます。

## 7) 佐賀県キク出荷組合が管内を視察

19日に、佐賀県の若手キク生産者6名と普及指導員等5名が、小林市とえびの市管内のキク農家に視察に来られました。

普及センターから西諸県管内の花き生産とキク農家の概要を説明し、農家からは栽培方法や経営改善に向けた取組等について説明されました。

視察に対応した農家はいずれも、省力的な作業体制や土づくり、生産品目の構成など様々な工夫をされていますので、佐賀県の参加者は労力管理の工夫など熱心に質問し、有意義な研修になったと思います。今回の視察が縁となり、お互いの経営発展につながることを期待されます。



【ほ場視察の様子】

## 8) 西諸県地区果樹技術員会第7回定例会

7日に、西諸県地区果樹技術員会を開催しました。会議では、各品目の生育概況報告や1月の視察についての説明を行いました。また、参加者が持参したチュウゴクアミガサハゴロモのキンカンへの産卵痕を全員で確認しました。

会議後、きんかんの果実調査を行い、昨年と比べて糖度は高く、す上がり率は低下という結果になりました。

今後も引き続き関係機関と連携していきます。



【キンカン果実調査】



## 9) 西諸県地区果樹技術員会 熊本県視察

22～23 日に、西諸県地区果樹技術員会で熊本県視察を開催し、①株式会社生科研（土壌分析について）②JA 熊本市柑橘選果場（選果場見学）③熊本県農業研究センター果樹研究所（ぶどう・梨・クリの研究内容について）の3箇所を視察しました。（株）生科研では、管内の生産者も土壌分析を依頼しているため、管内の土壌の特徴を知ることができました。今後は、視察で勉強した内容を業務に活用するとともに、生産者にも共有していきます。



【生科研で説明を聞く技術員】

## 10) 施設園芸の環境制御技術先進地視察

22 日～23 日に、施設園芸における環境制御技術の活用方法を学ぶために、高知県のメロン、ピーマン、パプリカの生産ほ場を視察しました。今回は、農林振興局と普及センター、JA の営農指導員が参加し、ハウス内の環境データの見方や管理改善の考え方などについて聞き取りを行いました。当地域でも実際に使える技術が多くあり、今後、今回の視察で得た知識を管内でも活用していけるよう、関係機関と連携して技術の実証や普及を行っていきます。



【生産者の説明を聞く指導員】